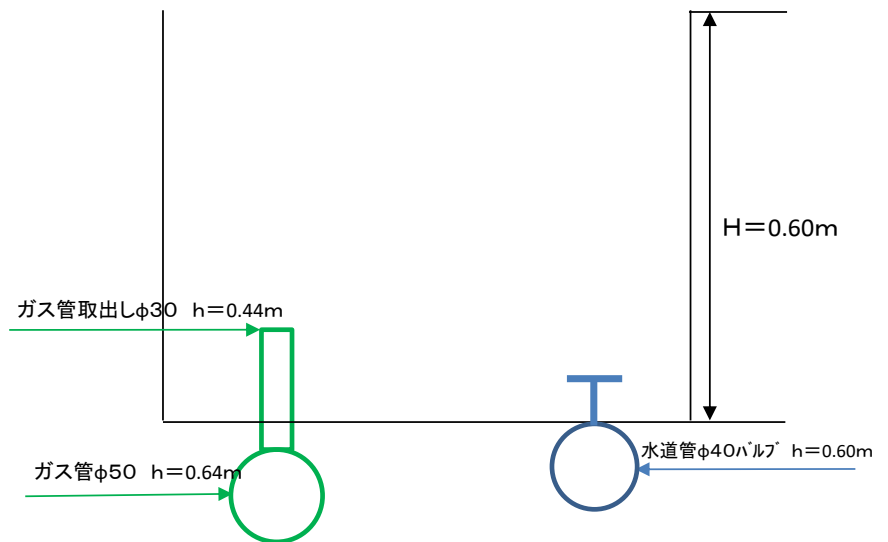


公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|----------------------|----|---|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害 | 発生日時 | 令和2年10月2日(金曜日)10時10分 | | | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 埋設物等損傷 | 性別 | — | 年齢 | — | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | ガス供給管(取り出し部根元部分)を破損 | | 事故レベル | I | | 休業見込日数 | — |
| 工事概要 | 道路舗装工事に伴う水道止水弁鉄蓋高さ調整工事 | | | | | | |
| 事故概要 | 掘削作業前に地下埋設物調査を行い作業していたが、埋設位置付近を掘削する際、人力掘削での確認を行わず機械掘削を行い、ガス管を破損させたもの。 | | | | | | |
| 事故原因 | 掘削作業前にガス管の埋設位置等確認していたが、埋設位置付近を掘削する際、人力掘削での確認を怠ったため。 | | | | | | |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・地下埋設物付近を掘削する際は、人力にて慎重に掘削を行い、埋設物全体の確認を行うよう改善した。 ・再発防止のため、社内研修を行った。 | | | | | | |

事故状況図



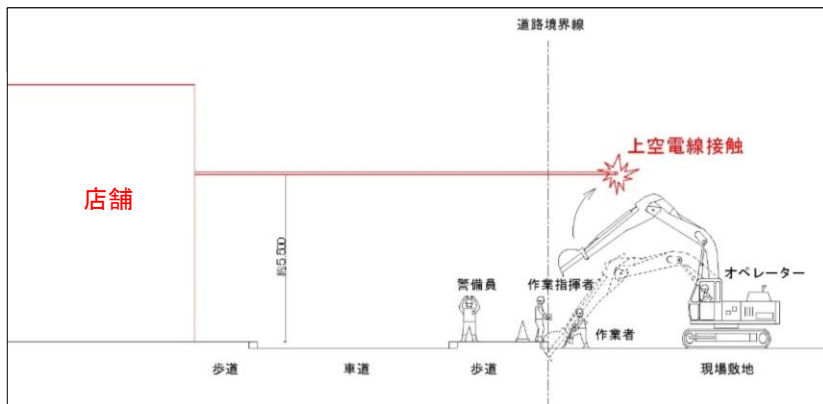
改善状況図





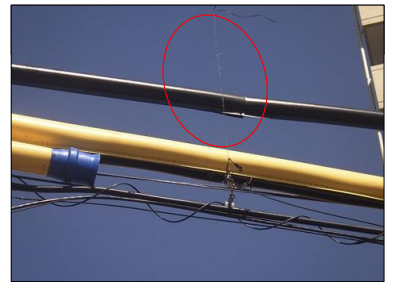
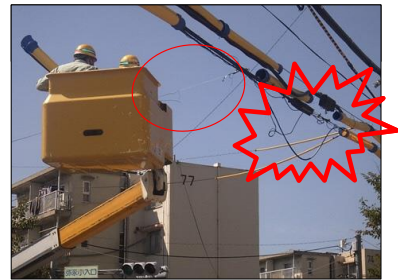
公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|--|------|----------------------|-------|----|---------|------|
| 事故分類 | 物損公衆災害 | 発生日時 | 令和2年10月5日(月曜日) 9時40分 | | | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 架空線・信号等損傷 | 性別 | — | 年齢 | — | 業種区分 | 建築 |
| 被災程度 | 架空線切断 | | | 事故レベル | II | 休業見込日数 | — |
| 工事概要 | 建物新築工事 | | | | | | |
| 事故概要 | 工作物床板を築造するため、バックホウ(0.4m ³)を用いて床掘掘削作業を行っていたところ、バックホウのアームを上空のNTT架空線に接触させ、架空線1本を切断(通信障害2施設)したものを。 | | | | | | |
| 事故原因 | 合図者を配置していたが、道路境界付近の掘削作業であった等から、官民境界縁石や地下埋設物への接触防止及び掘削深さに合図者の注意が向けられていたため、上空にあった架空線に十分注意が払われていなかった。また、当該架空線がバックホウオペレーターから目視しにくい位置にあったことから、バックホウのアームを上げた時にアームが架空線に接触したものを。 | | | | | | |
| 改善策 | ①作業場所にて現地KY活動を行う。 ②合図者は現場の危険に注意を払いながら適切な指示を行い、オペレーターは合図者の指示を厳守するよう再教育を行う。 ③架空線等の上空の障害物近くに注意マークを設置するとともに、バックホウの運転席に「上空注意」と「埋設物注意」の標語を掲示する。 | | | | | | |

事故状況図



 重機接触箇所  切断箇所



改善状況図



再発防止協議会の実施



注意マーク設置



現地KY活動の実施



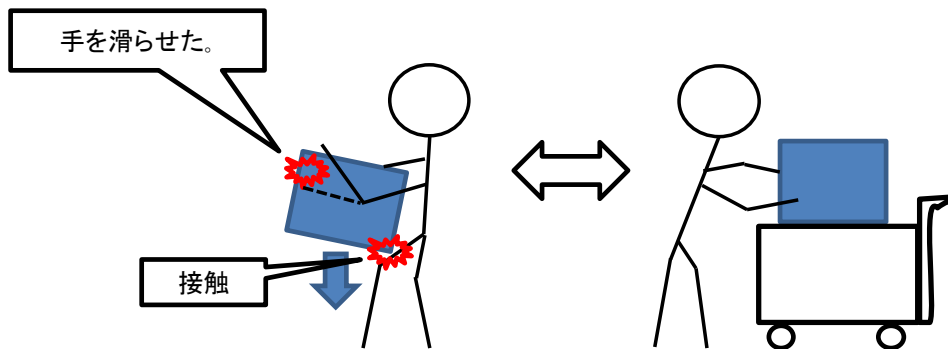
重機への標語掲示

公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|----------------------|-------|----|---------|-----|
| 事故分類 | 労働災害 | 発生日時 | 令和2年10月8日(木曜日)13時15分 | | | 工事関係者区分 | 元請け |
| 事故区分 | その他 | 性別 | 男性 | 年齢 | 35 | 業種区分 | 設備 |
| 被災程度 | 左膝部の裂創 | | | 事故レベル | I | 休業見込日数 | 1日 |
| 工事概要 | 空調設備更新工事 | | | | | | |
| 事故概要 | チャンバーボックスを台車で搬入後、荷下ろし作業中に手を滑らせ、チャンバーボックスが左膝部に接触し裂創。 | | | | | | |
| 事故原因 | チャンバーボックス等のダクト類は鋼板製であり滑りやすいため、スベリ止め手袋を着用し荷下ろし作業を実施していたが、資機材の荷下ろしは日々行う作業であり、単純な繰り返し作業による慣れから油断が生じたことが原因と考えられる。 | | | | | | |
| 改善策 | 災害防止協議会や安全会議等において、事故の発生状況や原因を説明し、再発防止対策(資材ごとの特性に応じた安全な作業方法を検討し、朝礼等で注意喚起)の確認を行った。 | | | | | | |

事故状況図

台車からチャンバーボックスの荷降ろし時に誤って手を滑らせて落下時に左膝部と接触し、裂創した。



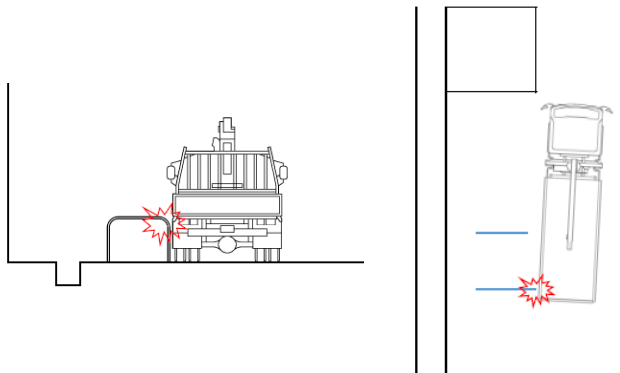
改善状況図



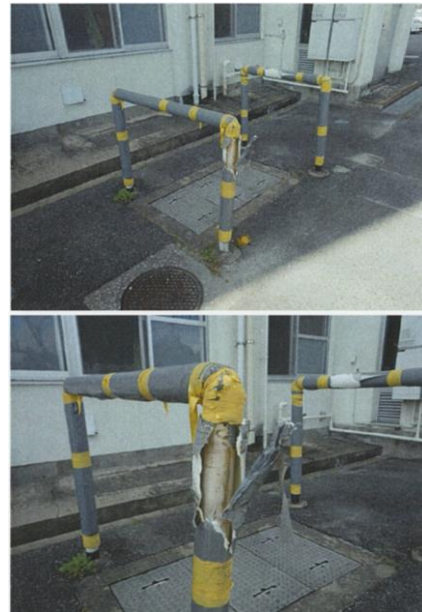
公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|--|------|-------------------------|-------|---|---------|----|
| 事故分類 | 物損公衆災害 | 発生日時 | 令和 2年10月12日(月曜日) 10時30分 | | | 工事関係者区分 | |
| 事故区分 | その他の物損 | 性別 | — | 年齢 | — | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 車止めポール破損 | | | 事故レベル | I | 休業見込日数 | - |
| 工事概要 | 小学校外構改良工事 | | | | | | |
| 事故概要 | 現場事務所(プレハブ)搬出時、大型車(8tユニック車)左後方部の車幅灯付近を、車止めポールに接触させ破損させた。 | | | | | | |
| 事故原因 | 現場事務所搬出時に、誘導員が他の作業(保安施設撤去)を行っており、誘導員無しで搬出を行っていた。運転手の周囲確認が不十分だった。 | | | | | | |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・搬入・搬出時は必ず誘導員を付ける。 ・搬入・搬出経路等を十分確認し、接触等の危険箇所については見やすい位置に注意看板等を設置する。 ・搬入経路図を作成し、搬入業者に事前に危険箇所等を周知させる。 | | | | | | |

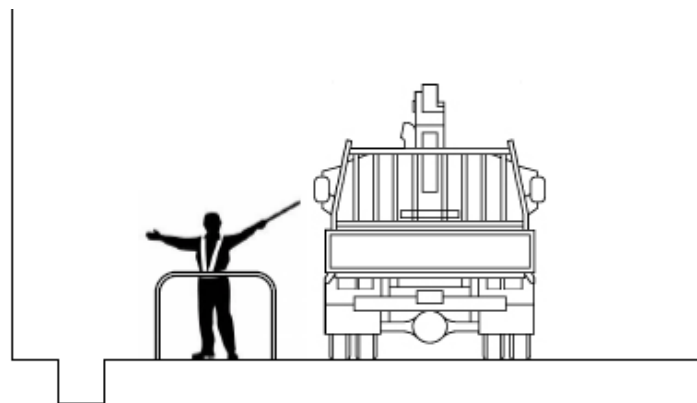
事故状況図



搬出作業の際、8tユニック左後方部が車止めポールに接触。



改善状況図

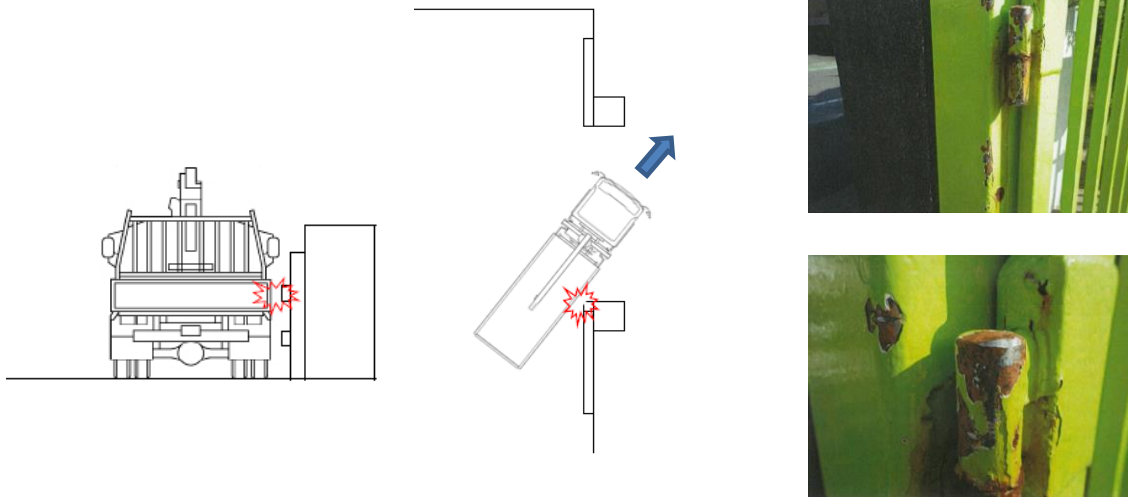


今後は交通誘導員を配置の上、搬出作業を行うよう指示。

公共工事等事故情報

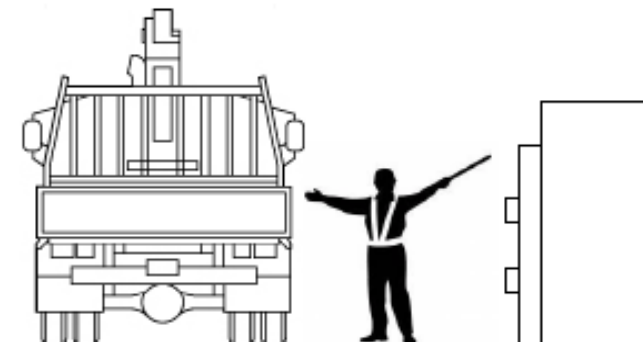
| | | | | | | | |
|------|--|------|-------------------------|-------|---|---------|----|
| 事故分類 | 物損公衆災害 | 発生日時 | 令和 2年10月12日(月曜日) 10時30分 | | | 工事関係者区分 | |
| 事故区分 | その他の物損 | 性別 | — | 年齢 | — | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 車止めポール破損 | | | 事故レベル | I | 休業見込日数 | - |
| 工事概要 | 小学校外構改良工事 | | | | | | |
| 事故概要 | 現場事務所(プレハブ)搬出時, 大型車(8tユニック車)右後方部のを, 門扉柱に接触させ損傷させた。 | | | | | | |
| 事故原因 | 現場事務所搬出時に, 誘導員が他の作業(保安施設撤去)を行っており, 誘導員無しで搬出を行っていた。運転手の周囲確認が不十分だった。 | | | | | | |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・搬入・搬出時は必ず誘導員を付ける。 ・搬入・搬出経路等を十分確認し, 接触等の危険箇所については見やすい位置に注意看板等を設置する。 ・搬入経路図を作成し, 搬入業者に事前に危険箇所等を周知させる。 | | | | | | |

事故状況図



搬出作業の際, 8tユニック左後方部が門扉柱に接触。

改善状況図



今後は交通誘導員を配置の上, 搬出作業を行うよう指示。

公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|--|-------|--------------------------|---------|-----|------|----|
| 事故分類 | 物損公衆災害 | 発生日時 | 令和2年 10月 17日(土曜日) 9時 55分 | 工事関係者区分 | 元請け | | |
| 事故区分 | 両・自転車等損 | 性別 | — | 年齢 | — | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 車両損傷 | 事故レベル | I | 休業見込日数 | - | | |
| 工事概要 | 道路反射鏡設置工事 | | | | | | |
| 事故概要 | コンクリート打設後の養生中、敷き鉄板のずれ防止のために設置した枕木が外れ、10/17(土)に走行した車が釘を踏んでしまった為に発生しました。 | | | | | | |
| 事故原因 | 本工事は道路反射鏡を設置する工事であり、道路反射鏡基礎部のコンクリート打設後の養生が必要となる。 当現場は、道路幅員3.8mであり、養生期間中も車両が通行できるように敷鉄板により養生していた。そこに、通行車両が敷鉄板に乗り上げ、鉄板のズレ防止のため設置していた枕木が外れ、枕木を固定していた釘が道路路上に散乱し、通過した車が釘を踏んだことによりパンクしたものとする。 | | | | | | |
| 改善策 | 同様の現場施工を行う際は、定期的な現場パトロールの実施、減速を促す看板設置、敷鉄板の常温合材等での固定などで対応する。 | | | | | | |

事故状況図



改善状況図

安全対策指導時には今後は合材等を使用し固定を実施する。また、対策が確実に行われていることを現場管理者が確認する。



公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|------------------------|-------|---|---------|-----|
| 事故分類 | 物損公衆災害 | 発生日時 | 令和2年10月21日(水曜日) 12時40分 | | | 工事関係者区分 | 元請け |
| 事故区分 | 自動車等 | 性別 | — | 年齢 | — | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 自動車左側サイドシルに接触傷 | | | 事故レベル | I | 休業見込日数 | — |
| 工事概要 | 道路改良工事(舗装工、側溝工、縁石工など) | | | | | | |
| 事故概要 | 駐車場出入口左側に仮置きしていた工事用資材に、車両(被災車両)が接触、当該車両を損傷させた。 事故発生時、受注者は、当該箇所への資材仮置きにあたり、資材の高さが約20cmしかなく運転者から死角となるため、その上にカラーコーン(高さ約75cm)を置いていた。また、誘導員2名を配置して、出入車両の誘導を行っていた。しかし、駐車場に進入しようとした被災車両が当該資材に接触しそうになったため、交通誘導員が制止したが、資材に接触した。 | | | | | | |
| 事故原因 | 工事用資材を車両から視認しやすいよう、資材の上にカラーコーンを置いていたが、資材の存在の明示が不十分であった。 | | | | | | |
| 改善策 | 一般車両の出入口付近に資材等を仮置きする場合は、資材等の位置を明示するため、カラーコーンで囲むことを徹底した。 | | | | | | |

事故状況図

Diagram illustrating the accident scene. It shows a one-way road (一方通行) with a pedestrian crossing (交). A vehicle is shown approaching from the left, with a red starburst indicating the point of contact with construction materials. The materials are labeled as '歩車道境界ブロック (基礎)' (sidewalk boundary blocks) and 'カラーコーン' (cones). A traffic guide (交通誘導員) is positioned near the crossing. A '照明灯' (light fixture) is also shown. The '進入路 約3m' (approach road, approx. 3m) is indicated.

Photograph of the accident site. A red box highlights the construction materials and cones. A red arrow points to the '歩車道境界ブロック (基礎)' (sidewalk boundary blocks). A red arrow also points to the '車進行方向' (vehicle travel direction).

改善状況図



保安施設状況写真

公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|-----------------------|----|---|---------|------|
| 事故分類 | 死傷公衆災害 | 発生日時 | 令和3年10月27日(木曜日) 9時50分 | | | 工事関係者区分 | 一次下請 |
| 事故区分 | 第三者人身 | 性別 | 女性 | 年齢 | — | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 右恥骨・坐骨骨折、その他打撲及び挫創 | | 事故レベル | Ⅱ | | 休業見込日数 | — |
| 工事概要 | 管布設工事 | | | | | | |
| 事故概要 | 地元住民が電動アシスト付き自転車で道路仮復旧箇所を通過中、段差付近で転倒し受傷させたもの。 | | | | | | |
| 事故原因 | 事故発生個所は管布設後に道路仮復旧を行った箇所で、通過交通の影響等により路面が下がって既存舗装面との段差が生じていたが、その段差は1cm未満であった。また、当該箇所は急な坂道であり(勾配約10%)、被災者は電動アシスト付き自転車を運転し、坂道を下って事故発生個所に差し掛かり転倒したものである。なお、事故発生時、被災者の自転車は相当の速度が出ていたところを受注者作業員が目撃している。また、被災者は常日頃からこの場所で速度を出されていたとの近隣住民の証言がある。 | | | | | | |
| 改善策 | 仮復旧の段差解消のため、頻繁に確認を行い、段差の大小にかかわらず気づいた時点で早急に補填するよう指導した。すぐに対処できない場合や、坂道等の段差の影響を大きく受ける箇所については、注意喚起のための看板の設置等の措置を行うよう徹底し再発防止に努める。 | | | | | | |

事故状況図



改善状況図



再発防止に向けた安全訓練講習会を実施

公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|------------------------|-------|----|---------|-----|
| 事故分類 | 労働災害 | 発生日時 | 令和2年10月23日(金曜日) 11時45分 | | | 工事関係者区分 | 元請け |
| 事故区分 | 工具等取扱 | 性別 | 男性 | 年齢 | 23 | 業種区分 | 設備 |
| 被災程度 | 左前腕を約3cm切創し, 4針縫合 | | | 事故レベル | I | 休業見込日数 | 0 |
| 工事概要 | 機器の運転管理業務 | | | | | | |
| 事故概要 | 安全対策として, 排気ファン(ベルトカバー裏側)に巻き込み防止用ネットを取り付ける作業を行っていた。ネット取付後, 被災者がネットの余った部分をカッターナイフで切断するため, 左手でネットを押さえた状態で刃に力を入れたところ, 勢い余って左前腕を切ってしまった。 | | | | | | |
| 事故原因 | <ul style="list-style-type: none"> ・カッターナイフの正しい使用方法を理解していなかった。 ・作業服の袖ボタンが留められていなかった。 ・昼休み前で時間に余裕がなく焦りがあった。 | | | | | | |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・カッターナイフの使用を禁止して, ハサミを使用することにした。 ・作業を行う際は, 必ず袖ボタンを留める。 ・緊急対応時以外は昼休みの15分前に作業を終了する。 ・危ないと感じたら誰でも(年齢など関係なく)注意できる安全で安心な職場環境をつくる。 | | | | | | |

事故状況図



改善状況図

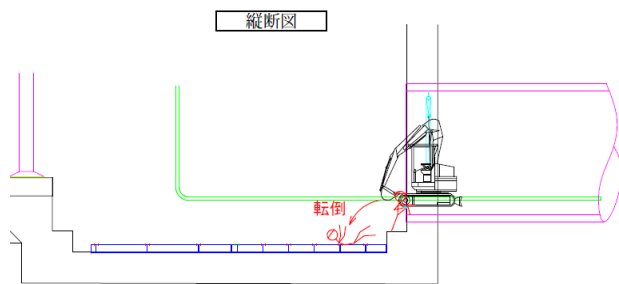


安全な器具(ハサミ)の使用状況

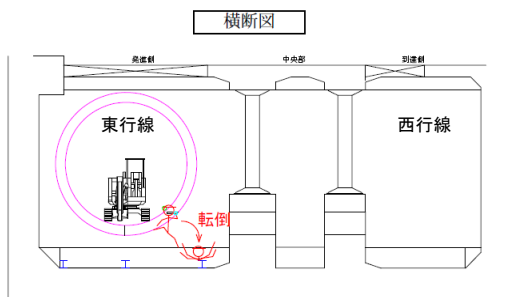
公共工事等事故情報

| | | | | | | | |
|------|---|------|----------------------------|-------|----|---------|------|
| 事故分類 | 労働災害 | 発生日時 | 令和 2年 10月 30日(金曜日) 15時10分頃 | | | 工事関係者区分 | 二次下請 |
| 事故区分 | 転倒 | 性別 | 男性 | 年齢 | 54 | 業種区分 | 土木 |
| 被災程度 | 左肩関節脱臼骨折 | | | 事故レベル | II | 休業見込日数 | 4日以上 |
| 工事概要 | 地下鉄七隈線延伸工事 | | | | | | |
| 事故概要 | 段差がある東行線シールド坑内へ上がろうとした際、体を支えるために右手で掴んでいた仮設材(クランプ)が外れ転倒した。その際下にあった鋼材に左肩を当て、負傷した。 通常時は段差が小さい真ん中を通して出入りをするが、当時、0.15mバックホウを立坑下に下ろす作業を行っていたため、坑口右端から無理矢理よじ登った。 | | | | | | |
| 事故原因 | <ul style="list-style-type: none"> ・バックホウ0.15mを坑内から立坑下に移動中であつたため、安全通路・昇降設備がなかった。 ・立坑下から坑内へ移動する際に、昇降設備がなかったために坑口右端より無理矢理よじ登った。 ・安全通路・昇降設備を一時的に撤去しなければならない場合の注意事項が、作業手順書に記載されていないかった。 | | | | | | |
| 改善策 | <ul style="list-style-type: none"> ・安全通路・昇降設備の設置を行う。 ・昇降設備を取り外したときは通行しないことをKYにて周知徹底する。 ・今後行われる作業において、安全通路・昇降設備を一時的に取り外さなければならない作業の注意事項を作業手順書に追記する。他業種作業員においては朝礼時に周知徹底する。 ・当日作業安全通路・昇降設備をJV職員と職長が確認する。 | | | | | | |

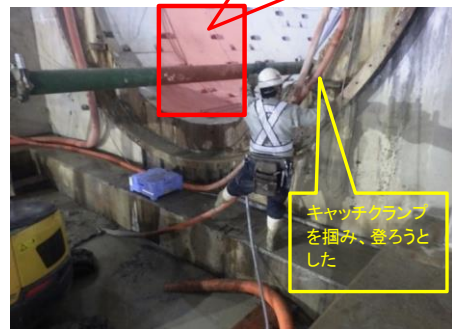
事故状況図



立坑下から坑内へ移動する際に、昇降設備がなかったため坑口右端より無理矢理よじ登った。



バックホウ0.15mが移動していた



改善状況図

安全通路・昇降設備設置状況

